

# 船舶事故調査報告書

令和元年 11 月 20 日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年 6 月 23 日 07 時 12 分ごろ
発生場所	愛媛県松山市松山港 松山港外港 2 号防波堤北灯台から真方位 356° 1,090m 付近 (概位 北緯 33° 52.7′ 東経 132° 41.9′)
事故の概要	プレジャーボート小富士は、航行中、干出岩に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年 7 月 9 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 小富士、5 トン未満（長さ 7.63m）
船舶番号、船舶所有者等	281-38246 愛媛、国立大学法人愛媛大学
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	プロペラ翼及び舵軸に曲損、プロペラシャフトに歪み
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 低潮時、潮高 約 135cm（松山）
事故の経過	<p>本船は、船長が 1 人で乗り組み、知人 3 人を乗せ、回航の目的で、船長が、自らが操船指揮に当たり、知人 1 人に舵を持たせ、フェリーの航路に入らないように約 10km/h の対地速力で松山市四十島と陸岸との間の水域に向けて北北東進中、干出岩に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約 0.3m、船尾約 0.6m であった。</p> <p>船長は、四十島と陸岸との間の水域に干出岩が存在することを知らなかった。</p> <p>海図 W1124 には、四十島と陸岸との間の水域に干出岩が記載されている。</p>
分析	本船は、北北東進中、船長が四十島と陸岸との間の水域に干出岩が存在することを知らずに同水域を航行したことから、干出岩に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が北北東進中、船長が四十島と陸岸との間の水域に干出岩が存在することを知らずに同水域を航行したため、干出岩に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に海図等で航行予定海域の水路調査を行っておくこと。</li> </ul>